

雪遊び

山形市少年自然の家

1. 活動の概要

雪が多く積もった雪原は、雪像作りや雪合戦・尻滑り・そりのオリジナルコース作りなど、子どもたちの創造力や遊び感覚を養う絶好の場になります。

ねらい：冬の自然を全身で味わうことで自然に親しむきっかけとなり、さらに雪遊びに作戦や考える場面を設けることで協働的な関わりを持つ。

【工夫が見られる活動例】

◆ドッジボール形式の「雪合戦」

雪玉を当てるだけの雪合戦から、相手に勝つための作戦へと意識が変わり、協働的な活動へと変容します。場とルールを決めれば、ゲーム開始です。

◆運動広場の斜面を使って「そり滑り」

単なるそり滑りから、もっと楽しむための「オリジナルそりコースづくり」に意識が向くように支援します。グループごとの活動にすることで、協力の輪が広がります。また、できたジャンプ台を紹介し合い、試し滑りをするのも「気付き」を生み出す機会になります。

2. 活動場所

- ・雨沼付近、野外ステージ付近(雪遊び、雪像づくりなど)
- ・ちびっこゲレンデ付近(そりすべり、尻すべりなど)
- ・運動広場(そりのオリジナルコースづくり)

3. 準備

《自然の家で》児童用スコップ(必要に応じて)

《各個人で》ふさわしい服装(ウェア、手袋、帽子)、足カバー(必要に応じて)など

4. 事前指導

- ① 活動範囲や使用可能な用具等について説明します。また、必要に応じて、行ってはいけない危険箇所の説明をします。
- ② 活動に対するイメージや見通し(時間設定等)を持たせ、めあてについての意識付けを行います。また、スコップなどの危険な使い方や危険な遊び方などについても説明します。

5. 実施上の留意点

- 使用する用具はみんなが使う大切な物なので、乱暴に扱う子どもには、安全面も含めて適切な指導を心がけましょう。

冬期施設利用案内図

